

R7教育庁による一次評価

大項目	中項目	確認項目	評価水準	配点	評価 水準を上回る 2点／概ね水準どおり 1点／水準を下回る 0点				
					2点	1点	0点	評価理由	
管理 状況	適切な管理 の履行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか							
		施設・設備の 保守点検	設備保守点検	点検表の作成(開館日)	× 1		1		計画どおり実施した。
			維持・保全	施設の修繕等の随時実施	× 2		2		復元住居の破損した敷石の修復など早期着手が必要な修繕について教育庁と適宜協議をし、適切に対応した。
		清掃	日常清掃、感染症感染拡大防止のための消毒作業	都民対応部分の清掃(開館日) 職員や都民が触れる場所を定期的に消毒	× 1		1		都民が手の触れやすい場所の定期的な消毒を実施した。
			樹木保護等	草刈り(年2回以上) 枝の剪定(年3回以上)	× 1		1		草刈りは3回、枝剪定は7回実施し、強風で折れた枝や危険個所の整備等迅速に対応した。
		受付・管理業務	施設警備	通年(年末年始を除く) 施設・巡回の実施	× 1		1		計画どおり実施した。
			受付業務	来館者受付、受付周辺の点検(開館日)	× 1		1		計画どおり実施した。
			出土品管理	管理表の作成	× 1		1		独自のデータベースを用い効率的な管理を行った。
			人員配置	考古学の専門知識を有する職員を2名以上配置	× 1		1		発掘調査の経験があり専門知識の豊富な学芸員を3名配置し、利用者に満足いただける企画や事業を実施した。
			人材育成	専門性向上等のための研修の実施(年1回)	× 1		1		世代交代を見据えた人材育成に積極的に取り組んでおり、習熟度に合わせて研修を実施した。
	安全性の 確保	施設の安全性は確保されているか							
			施設・設備の安全性の確保	消防設備点検(年1回)	× 1		1		計画どおり実施した。
			防災・防犯への配慮	消防訓練実施(年1回) 消防設備点検(年1回)	× 1		1		計画どおり実施した。
			緊急時対策	緊急対応訓練実施(年1回) 発生時のマニュアル整備	× 1		1		計画どおり実施した。
			施設・設備管理に関する書類等の管理	点検表の作成(開館日)	× 1		1		各種点検表等が作成され適切に管理されていた。
			事故への対応	施設利用者に影響が生ずる事故等が発生しなかったか 事故等が起きた際の対応や都への報告が適正であったか	× 1		1		事故の発生はなかった。
	法令等の 遵守	個人情報保護、報告等は適切に行われているか							
			個人情報保護、情報公開の取組	内部規定の遵守、保管場所の施錠研修(年1回)	× 1		1		個人情報は施錠できる場所で保管している。個人情報保護研修を実施した。
			公文書の管理	規程の遵守、管理状況の確認(年1回)	× 1		1		規定に基づき管理されていた。
			東京都サイバーセキュリティ対策基準の履行、利用記録等各種情報の管理	データアクセスのID制御の実施	× 1		1		ファイルサーバーについてファイアーウォールによるセキュリティ確保と、保管される情報種別のアクセス制限を適切に実施した。
			各種法令等の遵守	研修の実施(年1回) 業務に必要とされる関係法令遵守体制の整備	× 1		1		コンプライアンス・人権問題研修を実施した。
			労働環境確保への取組	社会保険労務士等の外部の専門家によるチェック(月1回)	× 1		1		法令等に基づき適切に実施した。
			協定等に基づく都への報告	迅速かつ遺漏のない報告・連絡	× 1		1		地震発生時は速やかに館内点検を行い都に報告をする等迅速に対応を行った。
	適切な財務・ 財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか							
			経営状況(安定的な運営)	収支状況の均衡性	× 1		1		健全な財政状況である。
			経理処理 経理・現金に関する書類等の管理	経理の明確な区分 帳簿、関係書類の整備、保存(指定期間終了後5年間)	× 1		1		2回立入検査を行ったが適正に処理されていた。
			都有財産(物品など)の管理	保全物品整理簿の整備 不適格品、亡失品等の報告	× 1		1		帳簿調査を行ったが適正に処理されていた。

大項目	中項目	確認項目	評価水準	配点	評価 水準を上回る 2点／概ね水準どおり 1点／水準を下回る 0点				
					2点	1点	0点	評価理由	
事業効果	事業の取組・サービス向上	求められる水準のサービスが提供されているか							
		年間事業	公開事業 （環境の変化など外部要因を考慮）	常設展示 復元住居での火焚き（年150日）	× 1		1		展示ホール利用者は22,210人で、昨年度比1.7%の増加となった。劣化していた展示ホールのフロアサインや館内マップの更新など、展示をよりみやすくした。復元住居の保全のため206日火焚きを行った。
			資料貸出	貸出状況等の確認（貸出簿の作成） 遺構写真等のデジタル化	× 1		1		貸出簿を作成し適切に貸出業務を行った。遺構写真のデジタル化については、令和7年度に資料の選定を行った。
		企画事業等	企画内容（企画の充実度、豊富さ）	イベントの見直し 新規事業	× 2	4			「お子さま考古学教室」の事前申込制を見直し、来館した子供たちが自由に体験できるイベントに見直したことにより参加者が大幅に増加した。「親子で縄文の森あそび」もリニューアルし、植物を自分で採取しミニ植物図鑑を作成するなど、体験活動を充実させた。また、学校の要望を受けて「オンライン特別講義」を開催し、「出前授業」の新たな取組を行った。
			積極的な広報・PR	HPの更新（月1回） デジタル広報の充実	× 1		1		月替わり展示や復元住居内火焚き日等のHP情報を月1回以上更新している。来館できない方へのサービス向上のため、企画展示「土の中のトーキョー ～近代考古学事始～」のウェブサイトを開設した。
			サービス向上に向けた創意工夫	幅広い入館者に対応した施策 利用者の声を反映した取組	× 2	4			ぬかるみや凹凸のあった遺跡庭園内の通路の整備を行い、車椅子やベビーカーの方でも快適に移動できるように改善した。また、庭園内の植物銘板をより見やすい箇所に追加掲示するなど、利用者の声を迅速に反映した積極的なサービスの向上に努めている。
	利用の状況	求められる水準の利用状況となっているか							
			事業企画の成果	企画展示の成果 都事業との連携	× 2	4			企画展示として「土の中のトーキョー ～近代考古学事始～」と題し、これまで調査してきた近代遺跡の成果を通じて、首都東京の明治維新以降の発展を「埋蔵文化財」の視点で振り返る展示を実施した。利用者からは「デジタル解説板が見やすい、わかりやすい」との評価を得た。さらに『東京文化財ウィーク』に合わせ、都指定史跡である多摩ニュータウンNo.57遺跡「縄文の村」をクローズアップする解説会やガイドツアーを初開催した。
		公開日数	展示ホール（年345日）、遺跡庭園（年359日）の通年公開	× 1		1			展示ホールは345日、遺跡庭園は357日公開した（休館日及び安全確保のための積雪時等以外は公開した）。
	利用者の反応	利用者の満足を得られているか							
			職員の接客対応 （職員の親切さ、説明の分かりやすさ等）	本項目に関する利用者満足度 90%以上	× 2	4			アンケートの結果、一般利用者の満足度では接遇99%。また、学校団体見学の満足度では、接遇態度100%、説明内容100%となるなど、接客対応にかかる満足度は非常に高くなっている。
			設備の快適さ （清潔さ、明るさ、温度設定等）	本項目に関する利用者満足度 90%以上（建物本体に対する事項は除く）	× 2	4			アンケートの結果、一般利用者の満足度では、展示エリアの快適さが97.9%、トイレの清潔さ快適さが96.7%となるなど、快適に過ごせるように対応している。
			苦情等の対応	迅速な対応	× 2		2		苦情はなかったが、利用者の意見・要望については迅速に対応できるものから対応した（例：企画展示の順路がわかりにくいという声に対し速やかに矢印案内を設置するなど）
特記事項		・遺跡庭園内通路の舗装区間を拡大し、段差の解消を図るなどユニバーサルデザイン化を推進した。また、劣化した展示ホールのフロアサインシートの更新や庭園ベンチの座面を交換するなど自主的に改善を行い、利用者が安全・快適に楽しく利用できる施設環境の改善・維持を行った点は評価できる。 ・「近代の埋蔵文化財」をテーマに「東京」の発展の歴史を展示した企画展示「土の中のトーキョー ～近代考古学事始～」はデジタル機器を活用した説明が利用者に好評であった。さらに「東京文化財ウィーク」に合わせ、多摩ニュータウンNo.57遺跡である「縄文の村」について特別展示やガイドツアーを実施し、都指定史跡をクローズアップする機会を創出した。また、「お子さま考古学教室」の申込方法の見直しや「親子で縄文の森あそび」の内容の充実を図るなど体験型イベントの改善を図るとともに、学校の要望を受けてオンラインで特別講義を行う「出前授業」の新たな取組を行うなど、常に事業内容の見直し等を継続的に行っている点は高く評価できる。 ・アンケートや昨年度実績の精査結果を業務改善に生かし、常にサービス向上に努めている。							
要改善事項等		・効果的なデジタル展示などについては、引き続き検討を要望する。 ・今後とも、利用者の声や要望を踏まえ、質の高いサービスの提供を期待する。							

※管理運営状況の確認結果や各確認項目の評価理由をもとに、総合的かつ具体的に記述してください。

【一次評価結果】

合計点	50	評価	A
-----	----	----	---

標準点	評価基準			
	S	A	B	C
	標準点の1.33倍(小数点以下切上)以上	S-1点以下 標準点の1.25倍(小数点以下切上)以上	A-1点以下 C+1点以上	標準点の0.88倍(小数点以下切捨)以下
40点	54点以上	50点以上	36点以上49点以下	35点以下

【その他】

1. 財務状況

指定管理者の 財務状況	・令和7年度財務業績は、経常収益10,917百万円、経常費用10,904百万円で、当期経常増減額は12.8百万円の黒字である。なお、都からの補助金が、46百万円（減価償却費相当として）計上されている。 ・当期経常増減額12百万円の事業別の内訳では、公益目的事業1（学校支援業務）が2.3百万円の黒字、公益目的事業2（埋蔵文化財事業）が11.1百万円の黒字で、法人会計が△0.6百万円の赤字である。 ・指定管理事業について、予算比では、管理運営費の職員費や委託料の増額があったが、施設管理費の一般需用費と工事請負費が減額し、委託料が増額した。その結果、収支差額は0.1百万円の赤字となっている。予算比の増減理由としては、給与改定による職員費の大幅な増額や展示替え（管理運営費）や建物管理等（施設管理費）に係る委託料の物価高騰による値上がり、施設・設備に係る修繕や工事（施設管理費）の件数減少による一般需用費や工事請負費の減額のためである。 ・現預金3,627百万円があり、資金繰り上の問題はない。公益財団であり、収支均衡の経営を目指して堅実にやっている。
----------------	--

※財務諸表上から得られた情報や財務分析結果など、客観的な情報を記載してください。

2. 特命要件の継続

特命により指定管理者を選定した施設については、特命要件とした内容及び施設の位置づけなどを再検証するとともに、事業計画等 に示された事業の評価対象期間中の達成度合いや効果等の検証を行ってください。

特命要件の 継続	＜特命要件とした内容＞ ＜特命要件＞ ・考古学の専門知識を持つ多くの学芸員が、専門性を必要とする当施設の指定管理業務を適切に行うことができる。 ・都の埋蔵文化財調査研究を担ってきたことにより蓄積した研究成果や最新の発掘情報を保有しており、当施設の出土品の出土時の情報や考古学的分類・評価等について精通している。 ＜特命要件の継続状況＞ ・出土品の展示や案内表示、縄文庭園の管理等において考古学の専門知識が必要であり、それらの知識を持った多くの学芸員が積極的かつ適切に業務を遂行している。 ・財団設立当時から現在に至る発掘調査における研究成果を蓄積し、発掘調査に関する情報も保有している。そのため出土時の情報も熟知しており、考古学的分類や評価について精通している。		
	埋蔵文化財調査の本部施設として、本施設の設置目的と合致した活用が図られているか	合致	変更あり
	都立埋蔵文化財調査センターの目的を達成するため、考古学の知識と経験を有する学芸研究員を従事させ、埋蔵文化財や史跡の適切な保存及び活用が遂行されているか	適切	適切でない
	公益財団法人東京都教育支援機構が調査した埋蔵文化財資料（特に多摩ニュータウン発掘資料）を中心とした展示・情報発信が行われているか	実施	未実施
	公益財団法人東京都教育支援機構の自主事業と本指定管理者業務が相互に活用され、事業の充実が図られているか	適切	適切でない
	＜理由＞ ・埋蔵文化財調査の本部施設として、設置条例に定める目的に沿った活用が図られており、考古学の専門知識を有する学芸研究職員により埋蔵文化財等の保存活用を適切に実施している。 ・発掘調査成果を活用した展示や工夫を凝らした企画事業を通して、東京都全体の埋蔵文化財保護の情報発信に努めている。 ・指定管理業務と共に自主事業も充実させることにより、施設全体の事業の充実と効率化が図られており、特命要件は継続されている。		